

中期経営計画

ごあいさつ

栗東市農業協同組合
代表理事組合長 北中 勇輔



JA栗東市は平成二十五年三月二十五日に「JA栗東市総合センター」桃李館及び小野支店をオープン致しました。これもひとえに組合員の皆様のご支援ご厚情、また歴代役員の方々の努力の賜物と心より感謝申し上げます。今後は、「田舎の元氣や」と連携し、より一層「食」と「農」、「人」と「人」が交流出来る施設を目指し、邁進していく所存であります。将来的には新事務所を拠点とした事業展開を通じ、組合員のみならず地域住民、さらに地域社会へと協同の輪を広げて参ります。

我が国の経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかに景気回復への兆しが見られましたが、欧州や中国の経済不安、円高等により、景気は弱い動きで推移しました。そのような中で、第二次安倍内閣が誕生し、株価の上昇や為替相場が円安傾向に向かうなど明るい材料は増えてはいるものの、依然として不透明感は拭いられません。持続発展可能な政策等、本場に必要政策が実行される政権となることを願います。

農業においては、TPP交渉が今後どのように行われるのか、農業・農村は守られるのか、政府は事前協議を含め交渉の進捗状況について情報を広く開示し、これらの不安を払拭するための説明責任を果たす必要があります。そして交渉の中で、日本農業における重要品目を除外することを明確にしなければなりません。引き続き断固反対の運動を徹底的に展開して参ります。

このような情勢の中、平成二十五年度から平成二十七年までの三年間を対象に中期経営計画を策定致しました。今後より一層組合員の皆様の期待に応えられる施設の運営や施策を進めてまいりますので皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JA栗東市の基本理念

消費者に「信頼」される安全・安心な農産物の提供に努めること、組合員の負託に応える経営の「改革」を実践すること、地域社会に「貢献」する協同活動を展開することを基本姿勢として次の取組みを進めてまいります。

中期経営計画基本方針（平成二十五年度～平成二十七年）

社会構造の変化がJAの経営環境に様々な影響を与えている一方で、大きな環境変化が確実に到来してくる中、十年後の「めざす姿」をしっかりと見据えて、また、その実現に向けて、農家組合員の世代交代、高齢化と人口減少、農業生産の縮小傾向、また、農業の大規模化と少子化等といった現状を十分に認識し、経営に取組んでいかねばなりません。

今般、二〇一二年十月に開催された第二十六回JA全国大会において、平成二十五年から三年間のJAグループの方針が決定され、協同組合の力で農業と地域を豊かにする「次代へつなぐ協同」を基本方針として主題が示されました。次代を含む多様な組合員・地域住民が、JAに集まり食と農を入口に多様なネットワークを構築し、「農業づくり、地域づくり、組織づくり」に取組むことこそが、「次代へつなぐ協同」へつなげていきます。

そこで、JA栗東市では、次の二つの視点と、三つの重点項目を中心に実現に向けて施策をすすめてまいります。

視点の一つ目「地域でおきな合い、多様な人や組織とつながり合う新たな協同」

組合員や地域のニーズの多様性を認め合い、組合員や地域住民の人々が個々の足りない部分を「おきな合い」、また地域でおきな合い合うだけでは足りない部分を更に地域外の人々や他のJAと協同し、地域の企業や団体等、

多様な組織の存在を尊重し、「つながり合う」新たな協同を実践します。

視点の二つ目「支店を核とした、組合員・地域の課題に向き合う協同」

身近な支店を核として、多様な世代にアプローチし、JAのファンをつくり、協同組合活動に参加できるような地域のつながりづくりに取組み、広がりをもった活動を展開しながら組合員・地域の課題を解決することにより事業の伸長を図っていきます。

重点項目の一つ目、地域営農ビジョンの積み上げと「販売を起点とした提案型の営農体制」による具体化を踏まえた「JA地域農業戦略」（JA地域農業振興計画）を策定し、強化、再構築し実践します。

重点項目の二つ目、協同組合らしさの中心にある「活動」を通じた地域の協同の輪づくりとJA総合機能の発揮を基軸に「JA地域くらし戦略」を策定・実践します。

重点項目の三つ目、世代交代等のJAの環境変化に対応した「JA経営基盤戦略」を策定・実践します。

以上を柱にして協同組合の原点に立ち返り組合員、地域住民から期待されるJA経営を目指します。そのためには、JA役員が激しく変化する環境に対応できる力を備え、それぞれの役割と責務を果たしてまいります。

JA地域農業戦略

農産事業

- I 営農指導
 - 「地域農業振興計画策定・実践強化運動」の展開
 - 担い手経営体への個別事業対応の強化
 - 新たな担い手づくりと農地のフル活用の実践
 - 生産費抑制と省力化技術の営農支援提案
 - 消費者との信頼に基づく「安全・安心」な農畜産物生産の実践
- II 農業経営
 - JAによる農業経営の実施都市化の進む農地から山間部の不作付地、荒廃地の有効利用と地域農業の活性化
- III 販売
 - 消費者志向に基づいた「売れる農産物づくり」の展開による販売力の強化
 - 多様な農業者と地域に根ざした生産販売戦略の実践
- IV 倉庫
 - 倉庫利用率向上と保全管理
- V 施設利用
 - 安全で効率的な施設運営
- VI 園芸センター
 - 野菜苗、花苗、果樹苗の利用拡大

JA経営基盤戦略

購買事業

- I 購買
 - JAの事業伸長を目指す「経営の変革」にチャレンジする体制の構築
- II 燃料
 - JAの事業伸長を目指す「経営の変革」にチャレンジする体制の構築
- III 旅行
 - JAの事業伸長を目指す「経営の変革」にチャレンジする体制の構築

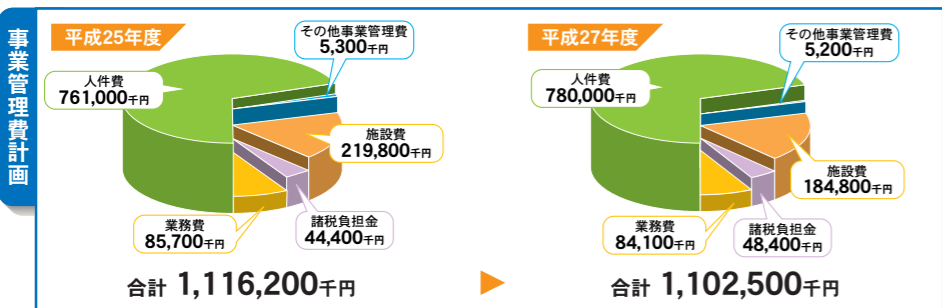
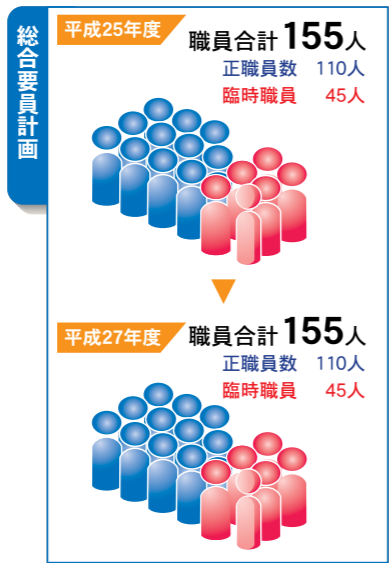
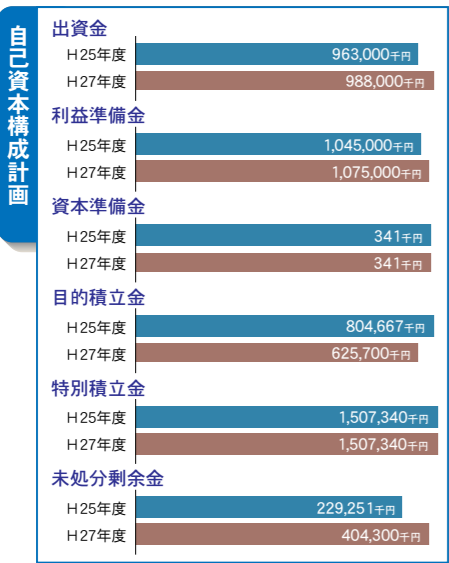
金融事業

- I 信用（貯金）
 - 利用者目線の事業展開による食と農、地域社会へ貢献するJAバンク
- II 信用（資金）
 - 利用者目線の事業展開による食と農、地域社会へ貢献するJAバンク
- III 共済
 - 地域に安心の輪を広げ、未来への絆づくり

JA経営基盤戦略

経営管理事業

- I 総務
 - 次代へつなぐ組織基盤の強化・組織活動の実践



※地域農業振興計画については、本店・各支店の閲覧用をご覧ください。

JA地域くらし戦略

経営管理事業

- I 企画
 - 裾野の広い参加者のもとでの、JAにかかわり、集い、つながる人を増やす取組み